経非圓佛。名にはよらず。三十一相の佛❶の前に法華經を置たてまつれば必純圓の佛云云。故普賢經に法華經の佛を説云、佛三種身從方等生文。是方等者非方等部之方等。法華を方等といふなり。又云、❸此大乘經是諸佛眼。諸佛因是得具五眼等云云。法華經の文字は佛の梵音聲の不可見無對色を、❹可見有對色のかたちとあらはしぬれば、顯形の二色となれる也。滅せる梵音聲かへて形をあらはして文字と成て衆生を利益する也。人の聲を出すに二あり。一には自身は存ぜざれども、人をたぶらかさむがために聲❺をいだす。是は隨他意聲❻。自身の思を聲❼にあらはす事あり。されば❽意が聲とあらはる。意は心法、聲は色法。心より色をあらはす。又聲❾を聞て心を知る。色法が心法を顯也。色心不二なるがゆへに而二とあらはれて、佛の❿御意あらはれて法華の文字となれり。文字變⓫じて又佛の御意となる。されば法華經をよませ給はむ⓬人は文字と思食事なかれ。すなはち佛の御意也。故天台釋云、受請説時只是説於教意。教意是佛意　佛意卽是佛智。佛智至深。是故三止四請。如此艱難。比於餘經餘經則易文。此釋の中に佛意と申は色法ををさへて心法といふ釋也。法華經を心法と⓭さだめて、三十一相の木繪の像に印すれば木繪二像全體生身の佛也。草木成佛とい

❶(木畫の)＋佛㊥　❷まつれば＋(成久遠實成…三世常住實佛) 139 字㊥　❸〔此大乘經是諸佛眼〕一㊥　❹を＝なれども㊥　❺聲＝音㊥　❻〔意〕一㊥　❼聲＝音㊥　❽意が聲＝心が音㊥　❾聲＝音㊥　❿御意…なれり＝御心法華の文字と顯れ㊥　⓫變じて又＝又變じて㊥　⓬よ…人＝讀誦せん人㊥　⓭さだめて＝定たり又㊥

へるは是也。故天台は一色一香無非中道と云云。妙樂是をうけて釋に、然亦俱許色香中道無情佛性惑耳驚心云云。華嚴の澄觀が天台の一念三千をぬす(盗ん)で華嚴にさしいれ、法華華嚴ともに一念三千。但華嚴は頓頓❷さきなれば、法華は漸頓のちなれば、華嚴は根本さき(魁)をしぬれば、法華は枝葉等といふて、我理をえたり❸とおもへる意❶如山。雖然一念三千の肝心、草木成佛を不知事妙樂のわらひ給へる事也。❺今の天台の學者等、我一念三千を得たりと思ふ。雖然法華❻をもて、或華嚴に同じ、或大日經に同ず。其義を論ずるに不出澄觀之見。同善無畏・不空。以詮謂之、今の木繪二像以眞言師❼供養之非實佛❽權佛也。非權佛。形は似佛意は本の非情草木也。又非本非情草木。魔也鬼也。眞言師が邪義、印眞言と成て木繪二像の意と成れるゆへに。例せば人の思變❾じて石と成。俱留と黃夫石❿が如し。法華を心得たる人木繪二像⓫を開眼供養せざれば、家に主のなきに盗人が入、人の死するに其身に鬼神入が如し。今以眞言日本佛供養すれば鬼入て人の命をうばふ。鬼⓬をば奪命者といふ。魔入て功德をうばふ。魔⓭をば奪功德者といふ。鬼をあがむるゆへに、今生には國をほろぼす。魔をたとむゆへに、後生には墮無間獄⓮。人死すれば魂去、其身に鬼神入替て亡子孫。餓鬼

❶さしいれ＝引入㊥　❷頓＝圓㊥　❸〔とおもへる〕―㊥　❹意＝心㊥　❺〔今の〕―㊥　❻〔法華をもて〕―㊥　❼〔師〕―㊥　❽〔權佛也〕―㊥　❾變じて＝返て㊥　❿黃夫石が如し＝黃石と成るが如し如此㊥　⓫〔木繪二像を〕―㊥　⓬(故に)＋鬼㊥　⓭(故に)＋魔㊥　⓮〔獄〕―㊥